

アカデミック英語参考図書・教材リスト

【リーディング編】

すでにある程度の英文読解能力をお持ちの皆さんにとって、次の目標は既習の文法事項を確認しながら精確に英文を理解すること、語彙を増やしながらリーディングの速度を上げることでしょう。ここでは、文法事項を確認しながら学術的な英文を精確に読解し、学術的な背景と語彙・表現の知識を増やしていくのに役立つ教材を挙げます。

(1) 中澤幸夫『テーマ別英単語 ACADEMIC』Z会（2009年）

(1) は自然科学編と人文・社会科学編があり、それぞれ中級・上級の教材があります。タイトルに「英単語」とありますが、いわゆる「単語集」ではなく、英語論文の中で英単語を覚えていくという形をとっています。英文の内容は、医療倫理や地球温暖化（自然科学・中級）、フーコー（人文社会・上級）やダーウィン、ポパー（自然科学・上級）など、人文系学部・大学院での授業・研究内容に直結するものが多くあります。

(2) 東京大学教養学部英語部会『The Universe of English』東京大学出版会（1998年）

(3) 東京大学教養学部英語部会『The Expanding Universe of English』 東京大学出版会（2000年）

(2) (3) は、学術的な内容の英文を集めて適切な解説を加えたものとして定評があります。(1) にはCDが付属していますし、(2) (3) はCDが付属したのも入手可能です。CDを用いれば、語彙・文章と発音を対応させるという基本的なリスニングの練習ができます。CDを繰り返し聞いて表現を丸ごと記憶すれば、自分の英作文の中で洗練された英語らしい表現ができるようになるでしょう。

【リスニング編】

英語のリスニングの教材は沢山ありますが、手軽で定評があるのはNHKのラジオ講座でしょう。レベル別に様々な講座が開講されていて、講座によっては一定期間インターネットで聞くこともできます。衛星放送を見ることができれば、五分間にまとめられ

た NHKBS の英語報道・学習番組「ABC ニュースシャワー」なども活用できます。「ABC ニュースシャワー」は ABC ニュースからの抜粋をまとめたものですから、時事的な内容です。番組の字幕とキーワードはインターネットでも公開されています。学術的な内容のリスニングを自習する場合におすすめできるのは、上の【リーディング編】で挙げた教材以外には以下のポッドキャストの番組があります。

(4) Ethics Bites

<http://www.open2.net/pod/ethics.xml>

内容は学術的なインタビューで、スクリプトも掲載されています。

(5) BBC Radio 4, In Our Time

<http://www.bbc.co.uk/radio4/history/inourtime/>

(4) 同様学術的なインタビューからなっていて、タイトルに **ethics** とある (4) より幅広い内容をカバーしています。バックナンバーは **science, religion, philosophy, history, culture** に分類されています。スクリプトは掲載されていないので、アカデミックリスニング上級者向けです。

【ライティング編】

まずは、センテンスレベルで日本語を的確な英語に直せるようになることが出発点です。この目的に適した本としては、たとえば次のようなものがあります。

(6) ケリー伊藤『英語ライティング講座 入門』 研究社 (2001 年)

センテンスがある程度書けるようになったら、次はセンテンスどうしをいかにしてつなぐかです。センテンスをなめらかにつなぐための方法については、次の 2 冊がたいへん参考になります。

(7) 杉原厚吉『理科系のための英文作法』中公新書 (1994 年)

(8) 大井恭子『「英語モード」でライティング』講談社パワー・イングリッシュ (2002 年)

パラグラフの構成の仕方も重要です。次の本の解説が参考になるでしょう。

- (9) ケリー伊藤『英語パラグラフ・ライティング講座』研究社（2002年）
- (10) 三浦順治『ネイティブ並の『英語の書き方』がわかる本』創拓社出版（2006年）

ここまできたら、あとは実際に論文・エッセイを書きながら、試行錯誤して技術を磨いていくしかありません。実際に書くにあたっては、次のような表現集を手元においておく役に立つでしょう（通読する必要はありません）。

- (11) 崎村耕二『英語論文によく使う表現』創元社（1991年）
- (12) 小田麻里子、味園真紀著、佐藤寧監修『英語論文すぐに使える表現集』ベレ出版（1999年）

英語論文の書式や句読法については、(11) (12) にも簡単な解説がありますが、より詳しくは、次の本などを参考にすると良いでしょう。

- (13) Joseph Gibaldi, *MLA Handbook for Writers of Research Papers*, Modern Language Association of America. (最新版は 7th Edition, 2009年)
- (14) *The Chicago Manual of Style*, The University of Chicago Press. (最新版は 15th Edition, 2003年)